

平成 29 年 4 月 19 日

各 位

会 社 名 株式会社富士山マガジンサービス  
代表者名 代表取締役社長 西野 伸一郎  
(コード：3138、東証マザーズ)  
問合せ先 取締役経営管理グループ長 佐藤 鉄平  
(TEL：03-5459-7076)

## 当社のデジタル雑誌戦略（第2の矢）の進捗について

当社は紙の雑誌用に作られた雑誌コンテンツを記事・画像単位のマイクロコンテンツ（※）に簡単に変換できる「Fujisan 記事抽出システム」を開発、本日より、広く出版社に向けて株式会社電通（本社：東京都港区、社長：山本敏博 以下「電通」という）と電通が運営するデジタル雑誌取次システム「Magaport」のサービスメニュー（以下、「マガポート記事サービス」という）として正式にリリースしましたので、ご報告申し上げます。

### 記

#### 1. 開発の経緯

近年フェイクニュースやキュレーションメディアの虚偽報道が社会問題化している状況において、Web メディアにおいては、出版社が取材や事実確認をもとに作った信頼できるコンテンツである雑誌コンテンツへの需要が高まっています。しかし、紙雑誌用に作られた雑誌コンテンツは PDF で作成されているため、Web メディアなどへの掲載において、そのままの形式では転用することができず、転用するためにはフォーマットを変換する等の作業が別途必要であり、この作業にはコストと時間がかかるために市場の需要に応えられておりませんでした。

当社はこの問題を解決するべく、紙の雑誌誌面データを AI 技術により自動でマイクロコンテンツに変換し、Web メディアなどに向けて編集可能な形式で提供できる「Fujisan 記事抽出システム」を開発するに至りました。このシステムを利用した電通の「マガポート記事サービス」のリリースにより、出版社は従来通りに電通が運営するデジタル雑誌取次システム「Magaport」に入稿すれば、記事・画像・文字サイズや色、背景などのレイアウト・メタ情報が DB 化され、従来の制作工程を大きく改変することなく、自らが作成・編集した信頼度の高い雑誌コンテンツの提供を通じて更なる収益機会を得ることができます。

現在の一般的な電子雑誌取次においては、紙の雑誌誌面 PDF をそのまま配信先企業に提供するタイプのもが多く、配信企業は雑誌コンテンツを多様な形式でユーザーに提供することが難しい状況ですが、今後当社と電通が提供する「マガポート記事サービス」によ

る雑誌記事のマイクロコンテンツへの最適化によりこの問題は解決されるものと考えております。

## 2. 今後の展開について

当社と電通は

- ・新しい広告テクノロジー商品の開発
- ・要約等の自然言語処理技術に基づく Web 配信に適した記事への自動編集機能の開発
- ・記事の検索やレコメンデーションサービスの提供

など、「Fujisan 記事抽出システム」で生成されたマイクロコンテンツを活用したサービスを拡充し、市場の需要に応じていく予定です。

## 3. 当社の業績に与える影響

本件による平成 29 年 12 月期の当社業績に与える影響は軽微であります。

※紙面より雑誌コンテンツを記事・画像単位で抽出し、現在提供されているページよりも画面の小さいスマートフォンなどでも利用可能なコンテンツのことをいいます。マイクロコンテンツの特徴は記事単位であることだけでなく、著者名や配信開始時間などの属性を明示できることなども挙げられます。

以上